

令和 4 年 6 月 8 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02373

研究課題名(和文)16-17世紀、東アジア海域の紛争と外交 日本・漢籍・イベリア史料による研究

研究課題名(英文)Conflict and diplomacy in maritime East Asia during the 16th and 17th centuries

研究代表者

中島 楽章 (NAKAJIMA, Yoshiaki)

九州大学・人文科学研究院・准教授

研究者番号：10332850

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、日本史料・漢籍史料・イベリア史料を、各分野の専門家の協力により総合的に検討することにより、16-17世紀の東アジア海域における紛争と外交の諸相について、多角的・総合的な共同研究を進めた。この共同研究の成果として、研究代表者・分担者・協力者、および海外共同研究者が寄稿した和文・英文の論文集を刊行した。それによって16-17世紀における東アジア海域の変動過程を、各国史的な研究領域の枠組みを超えて考察し、その成果を国内外の学界に広く発信した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

16-17世紀の東アジア海域では、日本・明朝・朝鮮・琉球、およびポルトガル・スペインなどのヨーロッパ諸国の間で、海上勢力間の対立から国家間の大規模な戦争にいたるまで、さまざまな紛争が多発し、その解決のために外交活動が行われた。こうした紛争や外交の全体状況を理解するためには、一国史ないし二国間関係史の枠組みだけではなく、当時の東アジア海域に関連する諸勢力・諸国家の動向を多角的・多言語的に検討することが必要である。本研究課題では、和文史料・漢籍史料・イベリア史料を専門とする、日本・中国・台湾・アメリカの研究者の共同研究により、この課題について総合的な研究を進めた。

研究成果の概要(英文)：In this research project, we proceeded multilateral collaborative studies concerning various aspects of disputes and diplomacies in the maritime East Asia in the 16-17th centuries, through the overall examination of Japanese, Chinese, Iberian historical sources. And as the accomplishment of this project, we published two books in Japanese and English respectively, in which principal investigator, co-investigators, research collaborators and foreign co-investigators made contributions. Thorough above research activities, we made multidisciplinary discussion on the transformation of maritime East Asia during the 16-17th centuries, and published its outcomes to domestic and overseas academic circles.

研究分野：アジア史

キーワード：東アジア史 島嶼・海域史 比較・交流史 史料研究 日本史一般 東アジア史 東南アジア史 南欧近現代史

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

16-17世紀の東アジア海域史に関しては、特に1980年代以降、日本史・中国史・東南アジア史の研究者によって、多くの研究成果が蓄積されている。また従来の一国史の枠組みを前提とした対外関係史に対し、境界を超えた海域交流に関する研究も活発化しつつある。ただしこの時代の東アジア海域においては、中国・日本・朝鮮・琉球などの東アジア諸国にくわえ、ポルトガル・スペイン・オランダなどのヨーロッパ諸国が活発な航海・交易活動を行い、相互の間に多様な紛争が生じ、外交活動が行われていた。こうした東アジア海域の全体状況を把握するためには、二国間関係史的なアプローチでは不十分であり、東アジア諸国・ヨーロッパ諸国の史料をより広く検討して、多角的・多言語的な研究を進める必要がある。

特に16-17世紀の東アジア海域では、海上貿易をめぐる対立から国家間の大規模な戦争に至るまで、東アジアの諸国・諸勢力の外、ヨーロッパの諸国・諸勢力も介在して、さまざまな紛争が多発しており、それらの解決を図るための外交活動も活発であった。これらの紛争・外交の諸相を十全に論じるするためには、紛争・外交の一方の当事者だけではなく、双方の当事者が残した言説を検討する必要がある。また紛争・外交当事者以外の、関係者・観察者が残した言説も参照することが求められる。このためにはこれらの多様な主体が残したさまざまな言語による史料や、それに関する研究文献を総合的に利用する必要があるが、いうまでもなく一人の研究者が多言語史料・文献を十分に活用することは容易ではない。

このため本研究課題では、中国・朝鮮などの漢文史料、日本の和文史料、および欧文史料のなかから特にイベリア(ポルトガル・スペイン)史料を主たる専門とする研究者が共同研究を行い、16-17世紀の東アジア海域史における紛争と外交を多角的に検討することを図った。

## 2. 研究の目的

本研究では、16-17世紀の東アジア海域で生じたさまざまな紛争と、それに関わる外交活動の諸相を、紛争や外交の双方の当事者、およびそれらの関係者・観察者が残した多言語による言説を、各国語史料を主たる専門とする研究者の共同研究により多面的・総合的に検討することをめざした。

16-17世紀の東アジア海域では、海上貿易の急激な拡大、ヨーロッパ式火器の伝播やキリスト教の伝来にとともに、海上貿易の利潤と火器などの軍事力を結合して、倭寇・海寇集団から新興国家に至る多様な商業=軍事勢力が台頭し、それらの間に交易利権や地域覇権などをめぐる紛争も多発し、紛争の拡大やその解決の過程では、さまざまな外交交渉も行われた。これらの紛争や外交に関しては、紛争の当事者・関係者・観察者によって多言語的な史料が残されていることが多く、それらを全体的に検証することにより、それらの一部が残した言説だけでは理解しがたい、紛争・外交の実態とその背景を把握することができる。

本研究課題では、このような各種の紛争と外交の実態を、その当事者が残した多言語的な言説を、できるだけ双方向的に分析し、一國史を前提とした対外関係史研究の枠組みを超えて解明することを試みた。そしてこれらの紛争・外交の諸相を通じて、16-17世紀の東アジア海域における交易秩序と国際関係の変動過程を、海域アジア史ないし世界史的な全体動向もふまえて論及することを目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究課題においては、研究代表者・分担者・協力者、および海外共同研究者が、各自が主な専門とする史料を中心に、16-17世紀の東アジア海域における紛争と外交をめぐる研究を行うとともに、それらの研究成果や関連する学術情報を相互に共有して、東アジア海域史の多角的研究を進めた。またそれらの研究成果を、国際学会や国内シンポジウムなどで発表し、最終的には和文・英文の双方で論文集を刊行し、研究成果を国内外に広く発信することを図った。

これらの研究活動に際しては、研究代表者・分担者・協力者・海外共同研究者が、次のような役割分担を通じて、16-17世紀の東アジア海域史に関わる漢文・和文・イベリア史料の総合的検討を進めた。まず研究代表者の中島楽章は、漢文史料・イベリア史料を中心に研究を進めるとともに、研究計画を全体的に調整した。また研究分担者の藤田明良・鹿毛敏夫、研究協力者の米谷均は、日本史料を中心に研究を行い、あわせて藤田・米谷は朝鮮史料、鹿毛は考古資料についても検討を行った。また研究分担者の山崎岳、研究協力者の久芳崇は、中国史料を中心に研究を来ない、山崎は日本史料、久芳は朝鮮史料も検討した。さらに研究分担者の岡美穂子、連携研究者のルシオ・デ・ソウザはイベリア史料を中心に研究を進め、岡は和文史料についても考察した。また連携研究者の桃木至朗は東南アジア関係の史料・文献について情報を提供した。

また海外共同研究者として、中国の李慶新・郭陽、香港のト永堅、台湾の劉序楓・李毓中・長谷川正人、韓国の柳教烈、アメリカのジェームス・フジタニも研究活動に協力し、各自が専門と

する史料や文献について情報提供を受け、また共同で学会参加や現地調査などを実施した。

以上のように、各国語史料を専門とする国内外の研究者が共同研究を行うことによって、16-17 世紀の東アジア海域における紛争と外交の諸相の多角的な検討を進めた。さらにやはり海域アジア史の総合的共同研究である、科研費基盤研究(A)「渡海者のアイデンティティと領域国家」(研究代表者・上田信)と連携して、シンポジウムを共催してその成果を論文集として刊行し、東アジア海域における紛争と外交、および人の移動を全体的に論究することをめざした。

#### 4. 研究成果

本研究課題では4年間の研究期間を通じて、研究代表者・分担者・協力者・海外共同研究者が、それぞれ16-17世紀の東アジア海域の紛争と外交に関わる研究を進めるとともに、共同で研究活動を実施し、その成果を学会や論文集を通じて国内外に発表した。特に主要な研究成果としては、下記の4項目を挙げることができる。研究代表者・分担者による単著・編著刊行、海外における共同学術調査、国際学会参加・シンポジウム共催、和文・英文論文集の刊行。以下、各項目について本研究課題の研究成果を総述する。

##### 研究代表者・分担者による単著・編著刊行

本研究課題の代表者・分担者などは、各自が主な専門とする史料を中心に、共同研究による知見も参照して、国内外において研究書や学術論文の刊行、学会報告などを行った。ここでは特に、代表者・分担者が研究期間中に刊行した単著・編著を挙げておく。

まず研究代表者の中島は、『大航海時代の海域アジアと琉球』(思文閣出版、2020年)を刊行し、イベリア史料を中心に漢文史料も併用して、琉球王国の海外貿易・対外関係を論じた。同書は第41回沖縄タイムス出版文化賞、第64回日経・経済図書文化賞、第33回アジア・太平洋賞特別賞を受賞している。

また研究分担者の岡美穂子は *The Namban Trade: Merchants and Missionaries in 16th and 17th Century Japan* (Brill, 2021) を刊行し、16-17世紀のポルトガルの東アジア海域における交易・紛争などを論じた。同書は O Prémio " Fundação Oriente- Embaixador João de Deus Ramos 2021" を受賞している。また岡は研究協力者の Lúcio de Sousa との共著により、『増補新装版 大航海時代の日本人奴隷』(中央公論社、2021年)を刊行し、同書の韓国語訳として、

16

(

、2021)も出版された。また岡美穂子・羽田正共編の、*A Maritime History of East Asia* (Kyoto University Press, 2019)も刊行し、同書には研究代表者の中島、研究分担者の藤田・鹿毛・山崎、研究協力者の米谷も共著者として加わった。

さらに研究分担者の鹿毛敏夫は、『戦国大名の海外交易』(勉誠出版、2019年)を刊行し、16世紀の豊後大友氏の海外貿易や紛争などについて論じた。また鹿毛は編著『描かれたザビエルと戦国日本』(勉誠出版、2017年)を刊行し、同書には中島・藤田・岡・山崎も論考を寄稿した。同じく鹿毛の編著である『硫黄と銀の室町・戦国』(思文閣出版、2021年)にも、中島・岡が論考を寄稿している。

以上の単著・編著の外にも、本研究の代表者・分担者などは、4年間の研究期間を通じて、「研究発表」欄に記すように、本研究課題に関わる多数の学術論文を刊行し、学会発表を行っている。

##### 海外における学術交流・現地調査

本研究課題では、研究代表者・分担者・協力者などが、各自で海外の図書館・文書館あんどにおける史料調査や、関連する現地調査を行うとともに、16-17世紀の東アジア海域における交易・紛争・外交などに関わる海外の遺跡・史跡・文献の現地調査を共同で実施した。

2017年度には、2017年7月に中島・鹿毛・岡・山崎が、溝田智俊(岩手大学農学部名誉教授)の協力を得て、タイ北部、チェンマイ附近の石灰岩地帯における、火薬原料の天然硝石産出地の現地調査を行った。また2018年2月には、藤田と米谷均が、海外共同研究者の柳教烈とともに、済州島における日朝海域交流に関する史料・史蹟調査を実施した。

2018年度には、2018年11月に中島・藤田・鹿毛が広東海上絲綢之路博物館において南宋期の沈没船南海1号の調査を行い、また香港海事博物館において、学芸員と広東沿海における海域交流と考古遺物に関する学術交流を行った。ついで2019年2月には、中島と鹿毛がカンボジアの16-17世紀のロンベーク都城遺跡や火器遺物を調査し、貿易陶磁研究者との学術交流を実施した。

2019年度には、2019年8月に中島・藤田・鹿毛・岡・米谷がメキシコにおけるスペインの太平洋貿易に関する資料・史蹟調査を行い、プエブラ大学において文化交流史研究者との学術座談会を実施した。2020年度には、新型コロナウイルスの世界的流行のため、予定した海外調査は実施できなかったが、全体として16-17世紀の東アジア海域を中心とした交易・紛争に関わる学術交流や史料・史蹟調査を実施し、海外の研究者との情報交換を行い、研究成果を共有することができた。

##### 国際学会参加・国内学会共催

本研究課題では、研究代表者・分担者・協力者・連携研究者が、海外共同研究者とも協力して、国際学会にパネルを組んで参加し、あるいは国内において他の科研費プロジェクトとともに研究会・シンポジウムを共催し、研究課題に関する各自の研究成果を国内外に発信した。

まず 2017 年度には、2017 年 7 月 20 日、タイ、チェンマイ市で開催された The 10th International Convention of Asia Scholars に、パネル “Japan in the Sengoku Period and Asian Trading Networks of Military Supplies” を組織して参加し、中島・岡・鹿毛・山崎が、16 世紀東アジア海域における軍需品貿易に関する研究報告を行った。

また 2018 年度には、2018 年 10 月に、科研費基盤研究(B)「日本中世貨幣史の再構築」(研究代表者・中島圭一)とともに、島根県大田市において石見銀山と東アジア貨幣流通に関する研究会を共催し、海外共同研究者の李慶新が 16 世紀広東の沈没船の考古調査について講演した。また 2019 年 1 月には、大阪市で開催された 4th Asian Association of World Historians Congress に、パネルセッション “International Trade in East Asia during the 16th-century Korea War” を組織して参加し、中島・岡・山崎、および研究協力者の de Sousa、海外共同研究者のト永堅が、豊臣秀吉の朝鮮侵略をめぐる軍事・政治・交易問題に関する研究報告を行った。

さらに 2019 年 2 月には、科研費基盤研究(A)「渡海者のアイデンティティと領域国家」(研究代表者・上田信)とともに、立教大学において、シンポジウム「アジアの海を渡る人々 16・17 世紀の渡海者」を共催し、中島・岡・藤田・米谷・山崎・鹿毛、および海外共同研究者の李毓中が、16・17 世紀東アジア海域の渡海者をめぐる、紛争・外交・交易・海難などの諸問題について研究報告を行った。

このほかにも、研究代表者・分担者・協力者は、各自が国際・国内学会において個別に研究課題に関連する学術報告を行い、国内外の研究者と討論や学術交流を進めた。ただし 2000 年以降は、新型コロナウイルスの世界的流行により、国内外での学会・研究会への参加・報告はほとんど断念せざるを得なかった。

#### 研究課題に関する和文・英文論文集の刊行

本研究課題では上記のような研究代表者・分担者・協力者などによる研究活動にくわえ、海外での共同史料調査・現地調査、および国際学会でのパネル組織と報告、国内でのシンポジウム共催などの学術活動の成果に基づき、研究課題に関する和文および英文の論文集を刊行した。

まず和文論文集として、科研費基盤研究(A)「渡海者のアイデンティティと領域国家」(研究代表者・上田信)との協力により、2019 年 2 月の立教大学におけるシンポジウム報告を母体として、論文集『アジアの海を渡る人々 16・17 世紀の渡海者』(春風社、2021 年)を刊行した。同書では、山崎が 1523 年の寧波事件をめぐる明朝・日本双方の政治動向を、鹿毛が豊後大友氏と東南アジア諸国との外交・貿易を、中島が 16 世紀の太平洋における黄金島伝承をめぐる競合関係を論じた。また李毓中は 1625 年のポルトガル船の広東漂着と現地住民との紛争を、米谷は明朝の豊臣秀吉冊封に際しての朝鮮通信使の情報収集を論じた。

さらに英文論文集として、Mihoko Oka ed., *War and Trade in Maritime East Asia*, Palgrave Macmillan, 2022 を刊行した。同書では研究協力者の桃木が歴史教育における海域アジア史の観点について総述し、鹿毛が西日本の諸大名による対明貿易の動向を、編者の岡が南蛮貿易初期のポルトガル私貿易商人の活動を、海外共同研究者のジェームス・フジタニがポルトガル人のマカオ居留に対する広東当局の対応を、藤田が 17 世紀初期の日本製世界図における航海・交易情報を論じた。また中島は朝鮮侵略の講和交渉における日明通商の再開問題を、海外共同研究者のト永堅は第 1 次朝鮮侵略に動員された明朝の方南方出身部隊をめぐる諸問題を、研究協力者の久芳崇は朝鮮侵略時の日本人捕虜を通じた日本式火縄銃の明朝への伝播を、米谷は朝鮮侵略後の朝鮮人被虜人の送還をめぐる外交交渉を論じた。

上記の和文・英文論文集によって、日本・明朝・朝鮮・ポルトガル・スペインなどの多様な主体による、紛争・外交・交易をめぐる事例研究の成果を刊行した。従来の海域アジア史研究では、交易や文化交流に対して比較的共同研究が乏しかった、これらの論考を通じて、16-17 世紀の東アジア海域の紛争・外交秩序の変動を全体的に提示することができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計35件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 中島楽章	4. 巻 nd
2. 論文標題 アルメニア商人は琉球に來たのか？ 大航海時代の金銀島伝承と琉球	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上田信・中島楽章編『アジアの海を渡る人々 16・17世紀の渡海者』春風社	6. 最初と最後の頁 233-275
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中島楽章	4. 巻 nd
2. 論文標題 16世紀東アジア海域の軍需品貿易ー硝石・硫黄・鉛	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鹿毛敏夫編『硫黄と銀の戦国・室町』思文閣出版	6. 最初と最後の頁 299-334
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中島楽章	4. 巻 1巻
2. 論文標題 明末白話小説と海外貿易	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 染谷智幸編『東アジア文学講座：はじめに交易ありき 東アジアの文学と異文化交流』文学通信	6. 最初と最後の頁 297-305
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中島楽章	4. 巻 15輯
2. 論文標題 龍腦之路 15～16世紀琉球王国香料貿易の一箇側面	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 海洋史研究	6. 最初と最後の頁 97-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 nd
2. 論文標題 世界史の中の石見銀	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『石見銀山遺跡 関連講座記録集』島根県教育委員会	6. 最初と最後の頁 .2-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 1号
2. 論文標題 グローバルな視点から見た南蛮貿易と石見銀山 予稿	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 石見銀山研究	6. 最初と最後の頁 8-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 223号
2. 論文標題 海と権力 宣教師報告に見る畿内=九州移動ルートの分析を手掛かりに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 387-405
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 nd
2. 論文標題 銀の島日本に関する情報をめぐって—スペイン・ポルトガルのアジア戦略—	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鹿毛敏夫編『硫黄と銀の室町・戦国』思文閣出版	6. 最初と最後の頁 25-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 1巻
2. 論文標題 大航海時代のキリスト教と東アジア」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 染谷智幸編『東アジア文化講座：はじめに交流ありき――東アジアの文学と異文化交流』文学通信	6. 最初と最後の頁 85-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 nd
2. 論文標題 マカオからみる16・17世紀の日・タイ関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 飯島明子・小泉順子編『世界歴史体系 タイ史』山川出版社	6. 最初と最後の頁 198-202
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田明良	4. 巻 223号
2. 論文標題 東アジアの媽祖信仰と日本の船玉神信仰	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 97-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田明良	4. 巻 38号
2. 論文標題 古媽祖像からみた媽祖の伝播・融合・転生	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 キリスト教文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 23-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田明良	4. 巻 160号
2. 論文標題 外来の航海信仰ー媽祖信仰を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 悠久	6. 最初と最後の頁 76-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿毛敏夫	4. 巻 nd
2. 論文標題 中世後期日本人の海洋活動と東南アジア交易	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上田信・中島楽章編『アジアの海を渡る人々ー16・17世紀の渡海者』春風社、 年、 17199	6. 最初と最後の頁 178-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿毛敏夫	4. 巻 nd
2. 論文標題 サルファーからシルバーへの時代転換	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鹿毛敏夫編『硫黄と銀の室町・戦国』思文閣出版	6. 最初と最後の頁 197-252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎岳	4. 巻 nd
2. 論文標題 宋素卿東渡日本考 寧波事件の歴史的前提	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上田信・中島楽章編『アジアの海を渡る人々 16・17世紀の渡海者 』春風社	6. 最初と最後の頁 81-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 Nakajima Gakusho	4. 巻 vol. 52, no. 1
2. 論文標題 The East Asian War and Trade between Kyushu and Southeast Asia in the Late Sixteenth Century: Centered on Kato Kiyomasa 's Trade with Luzon	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Chinese Studies in History	6. 最初と最後の頁 23-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島楽章	4. 巻 nd
2. 論文標題 17世紀の全般的危機と東アジア	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 秋田茂編『グローバル化の世界史』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 121-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 nd
2. 論文標題 16世紀「大航海」の時代とアジア	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 秋田茂編『グローバル化の世界史』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 71-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎岳	4. 巻 37号
2. 論文標題 朱[糸+丸]『贅餘雜集』自序：解題と訳註	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奈良史学	6. 最初と最後の頁 84-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 263号
2. 論文標題 国際交流の人々 日本人 一六・一七世紀マカオの日本人	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史と地理 (日本史の研究) 山川出版社	6. 最初と最後の頁 33-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田明良	4. 巻 nd
2. 論文標題 朝鮮王朝時代の濟州島：陸からの視座、海からの視座	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 伊地知紀子他編『濟州島を知るための55章』明石書店	6. 最初と最後の頁 138-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿毛敏夫	4. 巻 38号
2. 論文標題 九州における水軍の活動と戦国大名の「海城」政策 上野家文書と丹生島城	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 城郭史研究	6. 最初と最後の頁 3-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿毛敏夫	4. 巻 nd
2. 論文標題 守護大名大友親繁の館	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鹿毛敏夫・坪根伸也編『戦国大名大友氏の館と権力』吉川弘文館	6. 最初と最後の頁 10-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿毛敏夫	4. 巻 nd
2. 論文標題 戦国大名のインフラ整備事業と夫役動員論理	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鹿毛敏夫編『戦国大名の土木事業 中世日本の「インフラ」整備』戎光祥出版	6. 最初と最後の頁 251-273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島楽章	4. 巻 28期
2. 論文標題 十六世紀末朝鮮戦争与九州 東南亜貿易：以加藤清正の呂宋貿易為中心	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 明代研究	6. 最初と最後の頁 89-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島楽章	4. 巻 10輯
2. 論文標題 16世紀中期的東亜海域与火器伝播	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 海洋史研究	6. 最初と最後の頁 198-224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島楽章	4. 巻 nd
2. 論文標題 16世紀中期的馬六甲与華人海商	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『海客瀛洲 伝統中国沿岸城市与近代東亜海上世界』(上海古籍出版社)	6. 最初と最後の頁 389-397
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakajima Gakusho	4. 巻 nd
2. 論文標題 he Structure and Transformation of the Ming Tribute Trade System	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Manuel Perez Garcia and Lucio de Sousa eds., Global History and New Polycentric Approaches: Europe, Asia and the Americas in a World Network System, Palgrave Macmillan	6. 最初と最後の頁 137-162.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Oka Mihoko	4. 巻 論文集
2. 論文標題 The Nanban and Shuinsen Trade in Sixteenth and Seventeenth-Century Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Manuel Perez Garcia and Lucio de Sousa eds., Global History and New Polycentric Approaches: Europe, Asia and the Americas in a World Network System, Palgrave Macmillan	6. 最初と最後の頁 163-182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤田明良	4. 巻 28号
2. 論文標題 貿易情報付き旧世界図」の諸本と情報文	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 62-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田明良	4. 巻 53号
2. 論文標題 《太上説天妃救苦靈驗經》与永楽期的海外出使 日本天理大学所蔵永楽十二年版与永楽十八年版之考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 成大歴史学報	6. 最初と最後の頁 91-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿毛敏夫	4. 巻 14号
2. 論文標題 西国大名領国比較研究の方向性 大内と大友	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 博多研究会誌	6. 最初と最後の頁 51-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿毛敏夫	4. 巻 19号
2. 論文標題 16世紀日本とアジアのつながり 戦国大名と豪商のアジア進出	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地歴最新資料	6. 最初と最後の頁 3-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎岳	4. 巻 nd
2. 論文標題 攜古詩書坑焚前 聖賢道化可無疑：日本貢使策彦周良与寧波解元豊坊の文墨之交	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 劉序楓編『亞洲海域間の情報傳遞與相互認識』（台湾中央研究院）	6. 最初と最後の頁 25-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計26件（うち招待講演 14件 / うち国際学会 10件）

1. 発表者名 中島楽章
2. 発表標題 15-16世紀、琉球王国の香薬貿易の一面 ブルネイ産龍腦の中継輸出
3. 学会等名 2020年度九州史学会東洋史部会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 グローバルな視点から見た南蛮貿易と石見銀山
3. 学会等名 第1回石見銀山研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 戦国武将たちの南蛮船誘致合戦
3. 学会等名 おおいた大友学セミナー・戦国史シンポジウム in BVNGO（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 キリシタン 日本的なものが生じた背景
3. 学会等名 「潜伏キリシタンの祈りの世界」展記念講演（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 ポルトガル船の入港地変遷をめぐってー日本銀との関連から
3. 学会等名 大村市主催令和2年度郷土史講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鹿毛敏夫
2. 発表標題 戦国大名と鉱物資源――硫黄大名VS.銀大名
3. 学会等名 おおいた大友学オンラインセミナー・戦国史シンポジウム in BVNGO (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nakajima Gakusho
2. 発表標題 Relations between Ryukyu Kingdom and the Melaka Sultanate from the mid-15th to Early 16th Century: Mainly from Rekidai Hoan
3. 学会等名 Conference, Melaka in the Long 15th Century (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島楽章
2. 発表標題 龍腦之路：15-16世紀琉球王国香料貿易の一箇側面
3. 学会等名 “大航海時代珠江口湾区与太平洋 印度洋海域交流” 国際學術研討会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakajima Gakusho
2. 発表標題 15-16世紀、東アジア海域の龍腦貿易 琉球王国の香薬貿易と朝鮮
3. 学会等名 International Conference, A Look at East Asian History through Transnational Intercourse and Networks, (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 世界史の中の石見銀山
3. 学会等名 島根県世界遺産講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島楽章
2. 発表標題 16世紀中期の東亜航線と琉球群島 《日本一鑑》とLopo Homen 東亜図の比較検討
3. 学会等名 2018海洋史国際学術研究会「海洋亜洲の中心と辺縁：帝国・港市・離島」中央研究院民族史研究所（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島楽章
2. 発表標題 龍腦の道 一五・一六世紀の琉球王国と龍腦貿易
3. 学会等名 国際シンポジウム「近世期東アジア地域における医師の国際移動や学術交流 医学関係の筆談記録を中心に 」二松学舎大学（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakajima Gakusho
2. 発表標題 Munition Trade between Japan and Maritime Asia before and after the Invasion of Korea,
3. 学会等名 4th Asian Association of World Historians Congress, Osaka University Nakanoshima Center（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 中島楽章
2. 発表標題 レキオスを求めて ポルトガル人の琉球探索と情報収集
3. 学会等名 シンポジウム「アジアの海を渡る人々 16・17世紀の渡海者」立教大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 16世紀後半の南薩摩諸港と南蛮貿易
3. 学会等名 シンポジウム「アジアの海を渡る人々 16・17世紀の渡海者」立教大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田明良
2. 発表標題 1611年済州島地方官による「荒唐船」攻撃事件と島津氏の安南通交
3. 学会等名 シンポジウム「アジアの海を渡る人々 16・17世紀の渡海者」立教大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鹿毛敏夫
2. 発表標題 『豊後若林家文書』の修正翻刻と総合比較
3. 学会等名 九州史学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鹿毛敏夫
2. 発表標題 九州の水軍とその活動・築城
3. 学会等名 日本城郭史学会大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakajima Gakusho
2. 発表標題 Maritime Trade of Saltpeter in East and Southeast Asia during the late 16th Century ”
3. 学会等名 The 10th International Convention of Asia Scholars（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Oka Mihoko
2. 発表標題 The Commodity in the Nagasaki-Macau Trade of the Late 16th Century
3. 学会等名 The 10th International Convention of Asia Scholars
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤田明良
2. 発表標題 港市と交易品の記述を持つ江戸時代の世界図について
3. 学会等名 海域アジア史研究会2月例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Fujita Akiyoshi
2. 発表標題 Edo Period Maps of the World with Descriptions of Port Cities and Trade Items
3. 学会等名 Workshop "Momoyama Japan and the Artistic Contacts via Asian and Transpacific Sea Lanes" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鹿毛敏夫
2. 発表標題 16世紀日本の戦国大名権力とイエズス会・中国明朝 その相互認識
3. 学会等名 「宗教と民族の対立・交流の現代歴史学的研究」共同研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kage Toshio
2. 発表標題 Diplomatic relations and trade of military supplies between Western Japan and Southeast Asia in the 1570 's
3. 学会等名 The 10th International Convention of Asia Scholars
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yamazaki Takeshi
2. 発表標題 Relaxation and Restoration: Ming China's management of piracy in the late sixteenth century
3. 学会等名 The 10th International Convention of Asia Scholars (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yamazaki Takeshi
2. 発表標題 Relaxation and Restoration: Ming China's management of piracy in the late sixteenth century
3. 学会等名 The 10th International Convention of Asia Scholars (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 ルシオ・デ・ソウザ・岡美穂子 (共著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 252
3. 書名 増補新装版 大航海時代の日本人奴隷ーアジア・新大陸・ヨーロッパ	

1. 著者名 Haneda Masashi and Oka Mihoko (eds)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Kyoto University Press & Trans Pacific Press	5. 総ページ数 372
3. 書名 A Maritime History of East Asia	

1. 著者名 鹿毛敏夫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 360
3. 書名 戦国大名の海外交易	

1. 著者名 ルシオ・デ・ソウザ 岡美穂子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 201
3. 書名 大航海時代の日本人奴隷	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡 美穂子 (Oka Mihoko)  (30361653)	東京大学・大学院情報学環・学際情報学府・准教授  (12601)	
研究分担者	藤田 明良 (Fujita Akiyoshi)  (50309514)	天理大学・国際学部・教授  (34602)	
研究分担者	山崎 岳 (Yamazaki Takeshi)  (60378883)	奈良大学・文学部・准教授  (34603)	
研究分担者	鹿毛 敏夫 (Kage Toshio)  (60413853)	名古屋学院大学・国際文化学部・教授  (33912)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	米谷 均 (Yonetani Hitoshi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	久芳 崇  (Kuba Takashi)		
連携研究者	桃木 至朗  (Momoki Shiro)  (40182183)	大阪大学・文学研究科・教授   (14401)	
連携研究者	ロッシャデソウザ ルシオマヌエル  (Rocha de Sousa Lucio Manuel)  (70735836)	東京外国語大学・世界言語社会教育センター・准教授   (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 27.4th Asian Association of World Historians Congress, Panel Session 1.1, “ International Trade in East Asia during the 16th-century Korea War ”	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 The 10th International Convention of Asia Scholars, Panel 23, “ Japan in the Sengoku Period and Asian Trading Networks of Military Supplies ”	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関